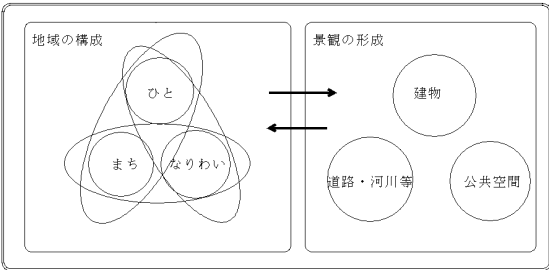


1. プロジェクト名称	歴史・文化資源を活かした「地域まるごとミュージアム」化実践プロジェクト ～島根大学旧奥谷宿舎を取り巻く「ひと・まち・なりわい」をキーワードにして～					
	(英訳名)	Project to make "Field museum" in Matsue city				
2. プロジェクトリーダー	所属	ミュージアム	職名	准教授	氏名	会下和宏
	現在の専門	博物館学			学位	学士(文学)
<p>3. プロジェクトの概要 ①本研究プロジェクトで何をどこまで明らかにするか、②当該分野の国内外の研究と比較して本プロジェクトのユニーク性・重要性・先見性、③島根大学で行う意義・大学の発展にとって期待される効果、について簡潔に記入してください。</p> <p>①現在、島根大学では、松江市奥谷町に残る国登録文化財「島根大学旧奥谷宿舎(旧制松江高等学校外国人宿舎)」を修復し、サテライトミュージアム、生涯学習施設、地域市民・観光客・学生・留学生が集う交流拠点として活用していくことを構想している。この一帯は、本学キャンパスに近いうえ、城下町の街並みが良く残り、歴史・文化資源も豊富に存在していることから、旧奥谷宿舎を核にして、周辺を有機的・面的に結び活用した「地域まるごとミュージアム」化をはかることも計画されている。しかし、こうした遠大な構想を具体的に実現していくためには、ミュージアムコンテンツとなる歴史・文化資源の学術研究、ミュージアム経営、行政・市民との連携、行財政・都市政策等に精通したそれぞれの専門研究者が、協業して進めることが欠かせない。</p> <p>そこで本プロジェクトでは、空間的には旧奥谷宿舎がある松江市城北地区を核にした出雲地域を、時代的には近世・近代を主たる対象とし、昨年度の本研究プロジェクトでキーワードとした「ひと・まち・なりわい」を継承しつつ分析概念としても発展させ、これをもとにその調査研究と資源化を推進する。具体的には、以下の3項目を柱に実施したい。</p> <p>A.旧奥谷宿舎(建築・居住者)・旧制松江高校(学校史・人物)等に関する調査研究と資源化(「5.各年度の計画の概要」①②⑦)</p> <p>B.旧奥谷宿舎周辺～松江・出雲の地域資源(歴史・文学等)に関する調査研究と資源化(「5.各年度の計画の概要」③～⑥⑧)</p> <p>C.旧奥谷宿舎を核にした「地域まるごとミュージアム化」「まちづくり」に関する調査研究と実践(「5.各年度の計画の概要」⑨～⑮)</p>						
		<p>その際、これらの個別的な研究課題を、【くひととくまち】、【くまちとくなりわい】、【くひととくなりわい】の関係の中で把握するとともに、それらをく地域(ひと・まち・なりわい)と景観(建物・道・公共空間)の概念で総合し、研究者のみならず市民・県民に明解かつ具体的に提示する。</p> <p>②地域のシンクタンクである大学が主導して歴史・文化資源を学術研究・資源化し、さらに自治体・行政機関とも連携しながら大学ミュージアムを通じて地域再生・活性化に貢献しようとする取り組みは、全国的にも先見的で、きわめてユニークである。従来、「経済」と対立的に捉えられてきた「歴史・文化」を「まちづくり」に活かしていくことは、今後のわが国における文化財行政、都市政策においても非常に重要な試金石となる。また、こうした「地域学」研究とその活用の取組は、国内外の他地域においても発展的に応用できるモデルとなりうる。</p> <p>③「地域まるごとミュージアム」化は、従来の大学に対してイメージされてきた「象牙の塔」から脱却し、地域に溶け込んだ大学の創造、地域に根ざした教育研究の振興につながる。まさに、「人とともに・地域とともに」という本学が目指す理念に沿うものである。</p>				
<p>4. 本学の中期目標・計画、大学憲章、アクションプランとの関係</p> <p>中期計画「地域社会の課題に対応し、産学官が連携して学術的・文化的・経済的価値を創出する研究を推進する」に合致。</p>						
<p>5. 各年度の計画の概要 年度ごとに何をどこまで明らかにするのかを簡潔に書いてください。</p> <p>H20年度(主な活動項目)</p> <p>【くひととくまち】の関係の研究</p> <p>①旧奥谷宿舎の建築・居住者、旧制松江高校の教官・学生に関する調査。</p> <p>②「地域の中の旧制松江高等学校―松江高等学校をめぐる人と町」のテーマで新聞等の史料収集・研究。</p> <p>③初代松江市長・福岡世徳の「公務手帳」全10冊の翻刻と研究。松江市制120周年の2009年にあわせて成果を出版。</p> <p>【くまちとくなりわい】の関係の研究</p> <p>④昨年度萌芽研究プロジェクトで収集した今岡ガクブチ店所蔵「古絵葉書」及び古写真と古地図、『商工名鑑』等を活用した旧奥谷宿舎周辺地域等の松江市旧市街における新たな歴史・文化・観光資源の発掘・調査・景観復元研究。</p> <p>⑤「天保年間松江城下絵図(松江城天守閣事務所蔵)」等を用いた松江城下町の研究と資源化。</p> <p>⑥松江市の近代化に果たした国際交流の役割についての研究と資源化。</p> <p>【くひととくなりわい】の関係の研究</p> <p>⑦旧制松江高校および足立文庫所蔵本のうち、特に教科書類を調査し、近代高等教育における学問の世界を解明する。</p> <p>⑧島根大学所蔵『雲陽秘事記』『大森文庫』、松江市奥谷町春日神社所蔵古文書等、近世・近代の松江・出雲に関係する古典・和</p>						

歌・散文・漢詩文・史料等の収集と電子化・研究。それらにみられる文化人・歴史的人物の事績についての研究。
 ⑨文化財群、歴史的町並み保全を活かしたミュージアム活動・都市政策・観光政策の事例研究。
 ⑩伝統産業・無形文化財(日本酒、醤油、そば等)を活かした商業活動活性化策の研究と松江市への政策提言。
 ⑪旧奥谷宿舎周辺地域における空き家の実態調査と利活用(定住促進と商業的利用の可能性)を研究。歴史的市街地における防災安全対策の検討。・・・松江市への政策提言。松江市とも協力・連携。
 ⑫旧奥谷宿舎・公民館で展示・市民講座を開き、以上の各研究成果(①～⑪)を地域市民に普及啓発。HPによる情報発信。

H21 年度(主な活動項目)

⑬H20年度活動①～⑫を継続実施。
 ⑭研究により明らかになった歴史・文化資源(①～⑧)を素材にし、開発した活用手法・実践活動(⑨～⑫)を用いて「地域まるごとミュージアム化」「まちづくり」「旧市街を回遊する町めぐりルート、展示・教育コンテンツ等の開発」を進める。・・・松江市とも連携し、開府400年記念事業、建設中の松江市歴史資料館(仮称)にも積極的に提供するなど、地域貢献を進める。
 ⑮修復後の旧奥谷宿舎を維持管理していく仕組み作り(運営組織、運営費用の捻出等)の研究と提言。

6. これまでの準備状況 関連する研究で公表された論文、成果などについて簡潔に記入してください。

本プロジェクトメンバーは、平成 19 年度島根大学萌芽研究「山陰地方における歴史・文化資源の発掘と活用に関する研究プロジェクト」を始めとする様々な研究プロジェクトにおいて、関連基礎研究や普及啓発事業等の実績を積み上げてきた。

7. プロジェクト推進担当者		平成20年度に限って記入してください。		計	名
ふりがな(ローマ字) 氏名(年齢)	所属部局(専攻など)・職名	現在の専門・学位	役割分担		
(プロジェクトリーダー) えげかずひろ(Ege Kazuhiro) 会下和宏(38)	ミュージアム・准教授	博物館学・学士(文学)	プロジェクトの総括。旧奥谷宿舎に関する調査研究。地域資源を活用したミュージアム活動の実践。		
たなかのりお(Tanaka Norio) 田中則雄(44)	法文学部(言語文化学科)・教授	国文学・博士(文学)	文学資料・近代教育資料の発掘・調査研究と資源化の実践。		
あしたこういち(Ashida Kouichi) 蘆田耕一(62)	法文学部(言語文化学科)・教授	国文学・文学修士	文学資料・近代教育資料の発掘・調査研究と資源化の実践。		
ようぎじゅんいち(Yougi Junichi) 要木純一(47)	法文学部(言語文化学科)・教授	中国文学・文学修士	文学資料・近代教育資料の発掘・調査研究と資源化の実践。		
たけながみつお(Takenaga Mitsuo) 竹永三男(57)	法文学部(社会文化学科)・教授	日本史学・博士(文学)	歴史資料の調査研究と資源化の実践		
ひろしまきよし(Hiroshima Kiyoshi) 廣嶋清志(63)	法文学部(山陰研究センター)・教授	人口学・工学修士	歴史資料の調査研究と資源化の実践		
さからえいすけ(Sagara Eisuke) 相良英輔(64)	教育学部・特任教授	日本史学・博士(文学)	歴史資料の調査研究と資源化の実践		
おびなつかつみ(Obinata Katsumi) 大日方克己(50)	法文学部(社会文化学科)・教授	日本史学・博士(史学)	歴史資料の調査研究と資源化の実践		
いのみきみお(Iino Kimio) 飯野公央(45)	法文学部(法経学科)・准教授	経済政策・経済学修士	地域資源を活用した「まちづくり」政策の調査研究と実践		
さくのひろかず(Sakuno Hirokazu) 作野広和(40)	教育学部(共生社会教育講座)・准教授	人文地理学・修士(文学)	地域資源を活用した「まちづくり」政策の調査研究と実践		

*この他、必要に応じて他の研究者にも参加してもらう予定。

8. 研究経費概算 年度ごとに使用する予定の経費を記入してください。(単位:千円)

平成20年度	平成21年度
設備備品 書籍・資料購入等 600、展示設備等 200	設備備品 書籍・資料購入等 600、展示設備等 200
旅費 島根県内・東京 400	旅費 島根県内・東京 400
消耗品費 コピー関連等 400	消耗品費 コピー関連等 400
人件費 アルバイト・謝金 500	人件費 アルバイト・謝金 500
その他 印刷費 600、資料のデジタル化等 300	その他 印刷費 600、資料のデジタル化等 300
合計 3,000	合計 3,000